

A hand is shown hovering over a small, white, oval-shaped device. Below it, a larger version of the same device is shown, featuring a small logo on its top surface. The background is a gradient from light to dark.

異能(Inno)vation

2017年 破壞的挑戰部門
小川晉平

本日の内容

- ・ 自己紹介/会社紹介
- ・ 異能(Inno)vation プログラム
- ・ 超聴診器
- ・ 遠隔医療
- ・ Take home message

自己紹介

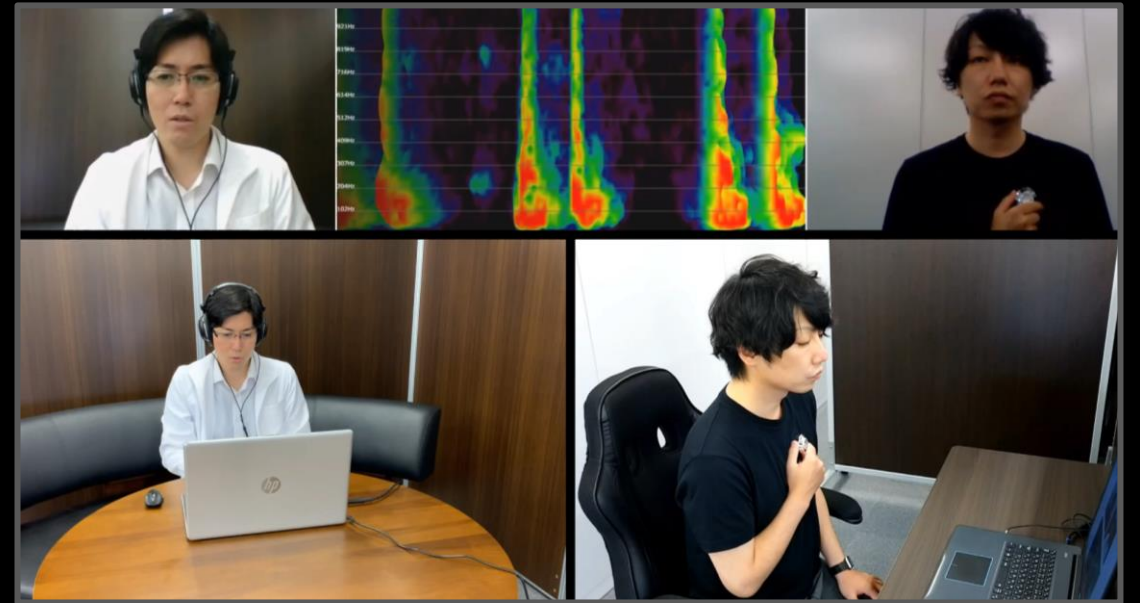
おがわ しんぺい
小川 晋平

AMI株式会社 代表取締役CEO
医師（循環器内科）

熊本県熊本市出身



医療機器の研究開発



遠隔医療の社会実装

医師が医療機器を作る理由①

遠隔医療

遠隔でも質の高い医療を



医師が医療機器を作る理由②

熊本地震

高度な医療機器のない世界



医師が医療機器を作る理由③

診療現場

心疾患による突然死を減らしたい



設立時 → 現在

メンバー

設立時

1人



医療従事者
エンジニア など34人

オフィス

設立時

机1つ



大学内など5拠点

研究開発費

設立時

自己資金のみ



NEDO・V C

知財

設立時

なし



単独出願で6個

プロダクト

設立時

何もない状態



薬事申請へ

研究フィールド

設立時

勤務先の病院



全国の医療機関

本日の内容

- 自己紹介/会社紹介
- 異能(Inno)vation プログラム
- 超聴診器
- 遠隔医療
- Take home message

異能(inno) vation最終選考時

メンバー

最終選考時

1人

オフィス

最終選考時

机3つ

研究開発費

最終選考時

自己資金のみ

知財

最終選考時

なし

プロダクト

最終選考時

工作レベル

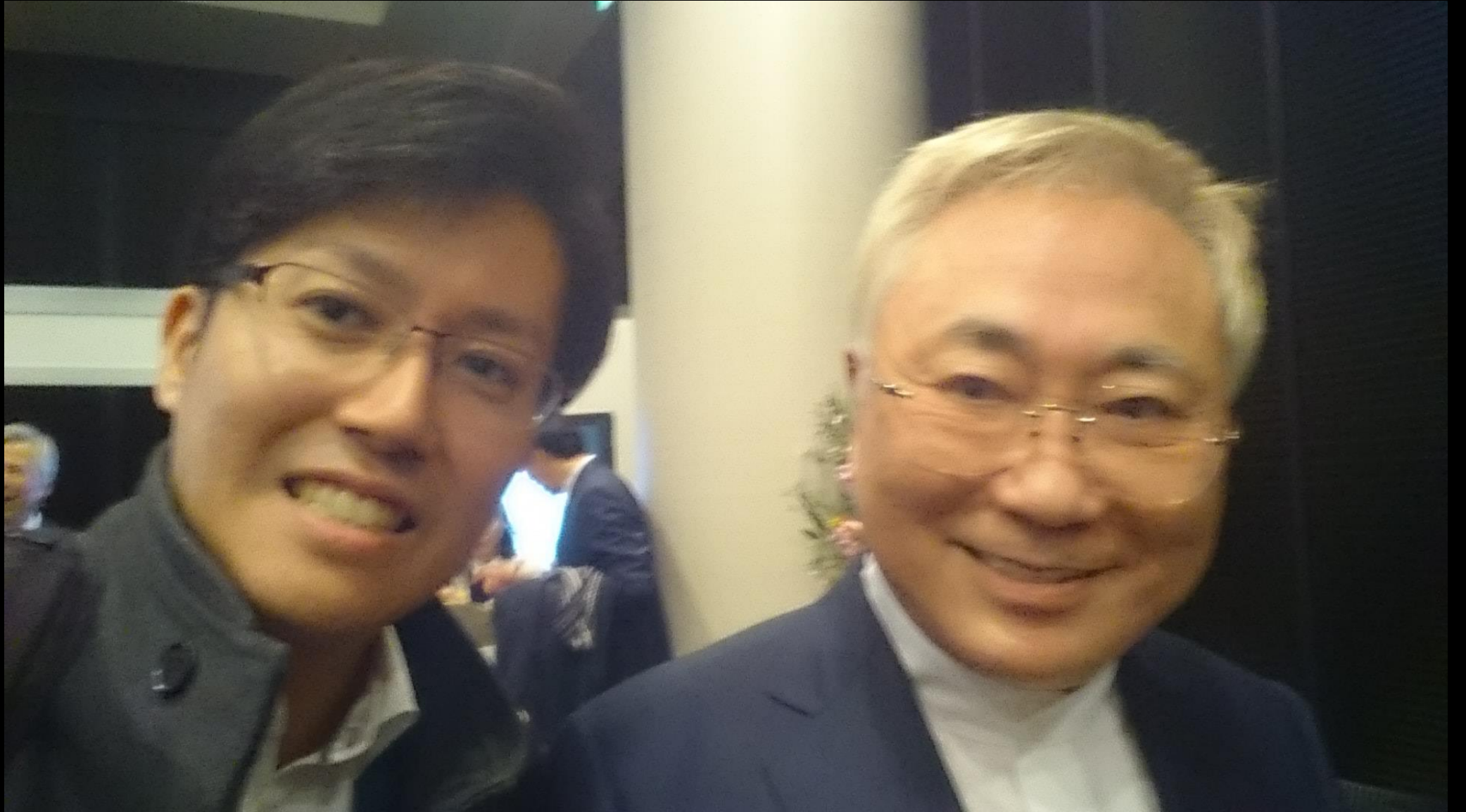
研究フィールド

最終選考時

勤務先の病院



2017年11月 異能vation表彰式



異能 (Inno) vation2018 表彰式



本日の内容

- 自己紹介/会社紹介
- 異能(Inno)vation プログラム
- **超聴診器**
- 遠隔医療
- Take home message



超聴診器

超聴診器

※医薬品医療機器等法未承認のため、販売、授与できません。

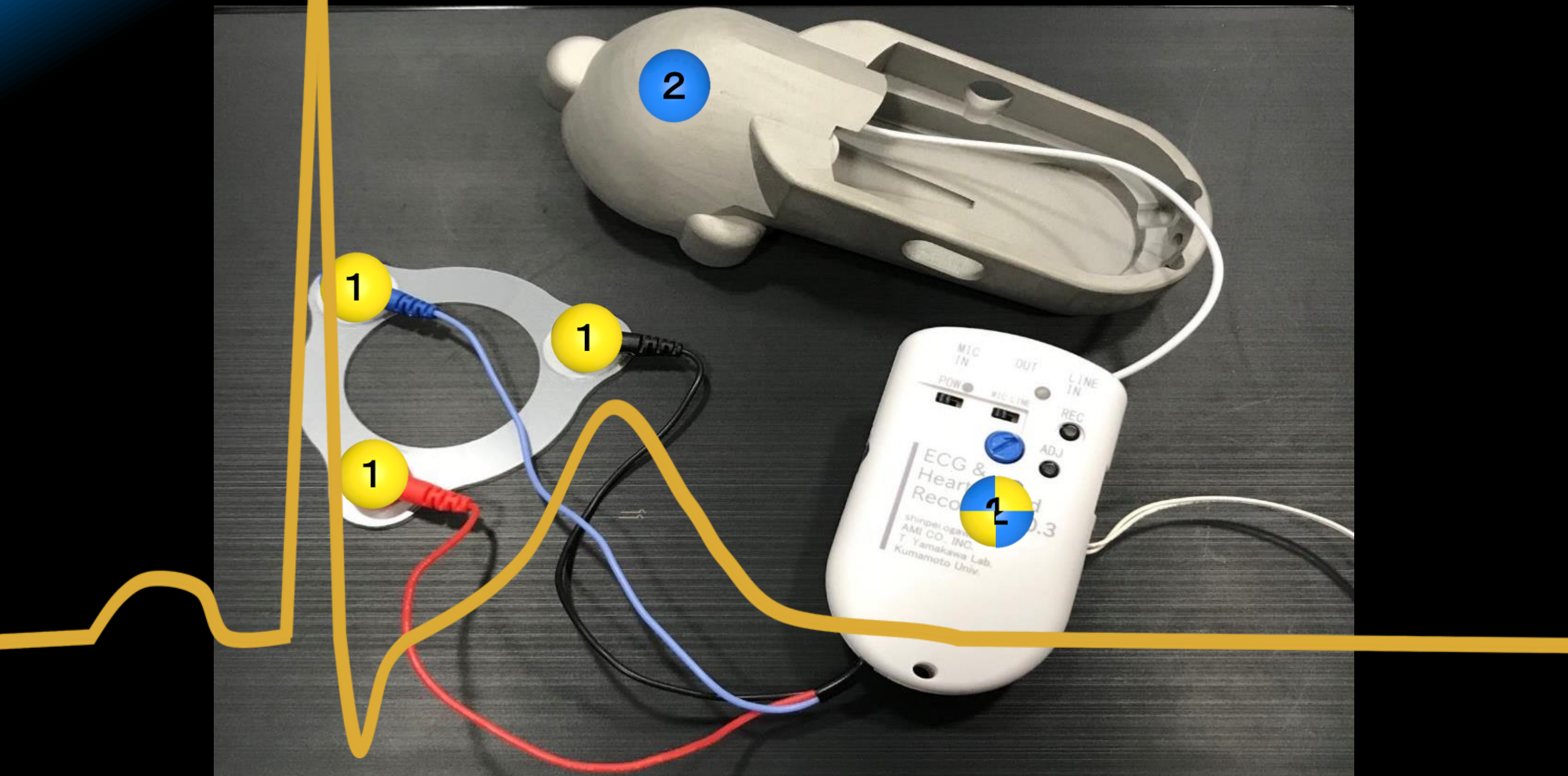
聴診器の歴史



200年以上前にフランスで発明

① 心筋活動電位

② 心音





2018

Team member : 4



2019

Team member : 10



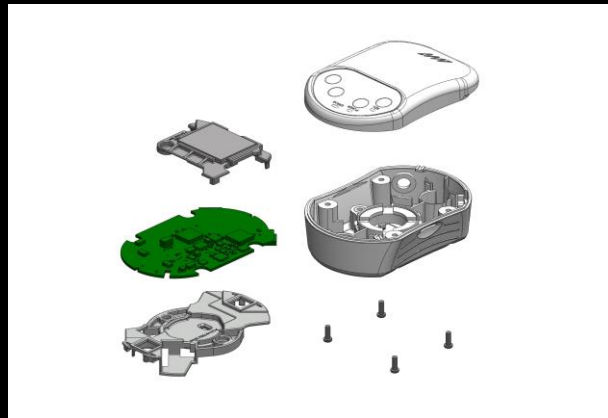
2020

Team member : 15



2021

Team member : 25



2022

Team member : 34



Target Disease 対象疾患

共通点①

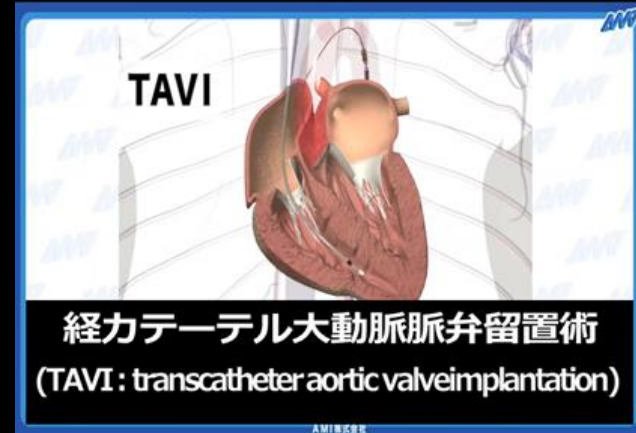
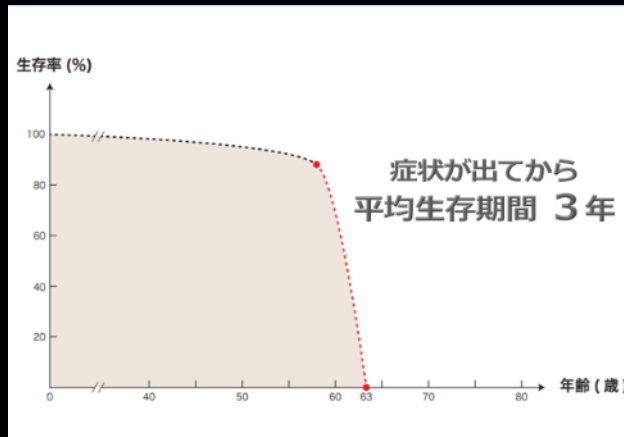
予後があまり良くない

共通点②

治療の選択肢が増えた

大動脈弁狭窄症

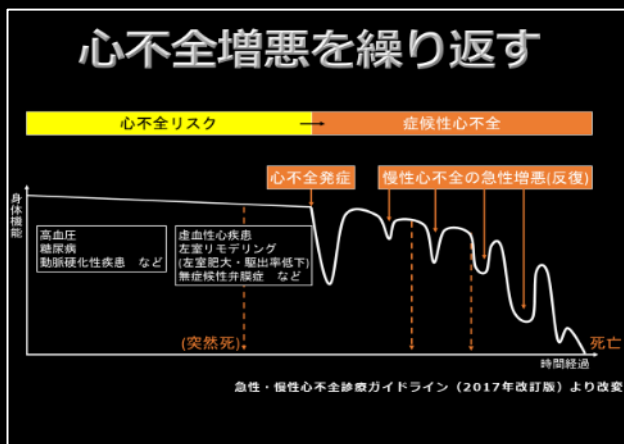
左心室の出口の弁(大動脈弁)が狭くなる病気
推定患者数は国内に約100万人



心不全

心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、
だんだん悪くなり、生命を縮める病気

(定義: 日本循環器学会 日本心臓学会)



超聴診器の開発目標

- ・ 心電と心音を同時に取得
- ・ 可聴周波数帯の音質
- ・ 非可聴周波数帯まで解析
- ・ 臨床研究 → データベース → AI
- ・ 遠隔医療への技術応用

※医薬品医療機器等法未承認のため、販売、授与できません。

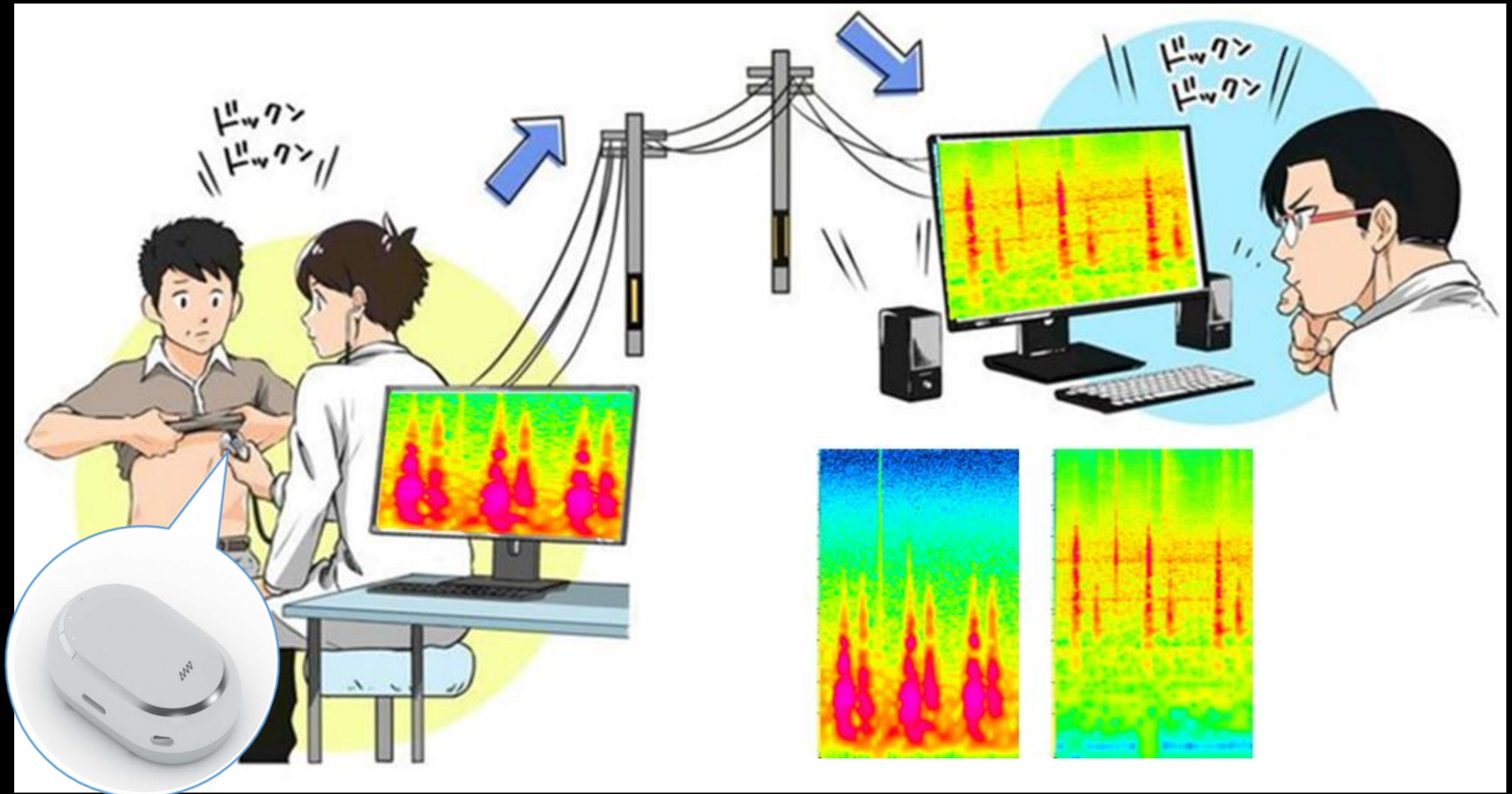
本日の内容

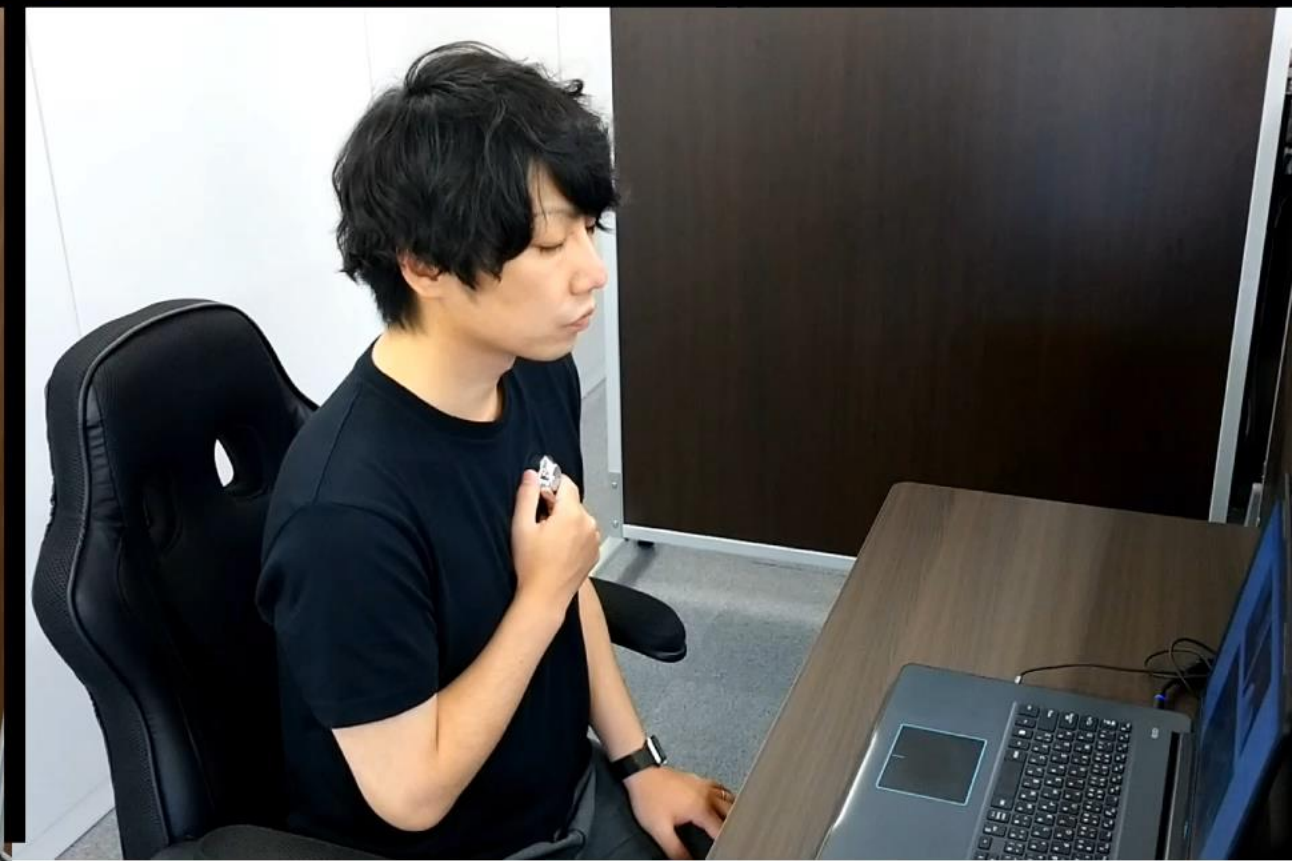
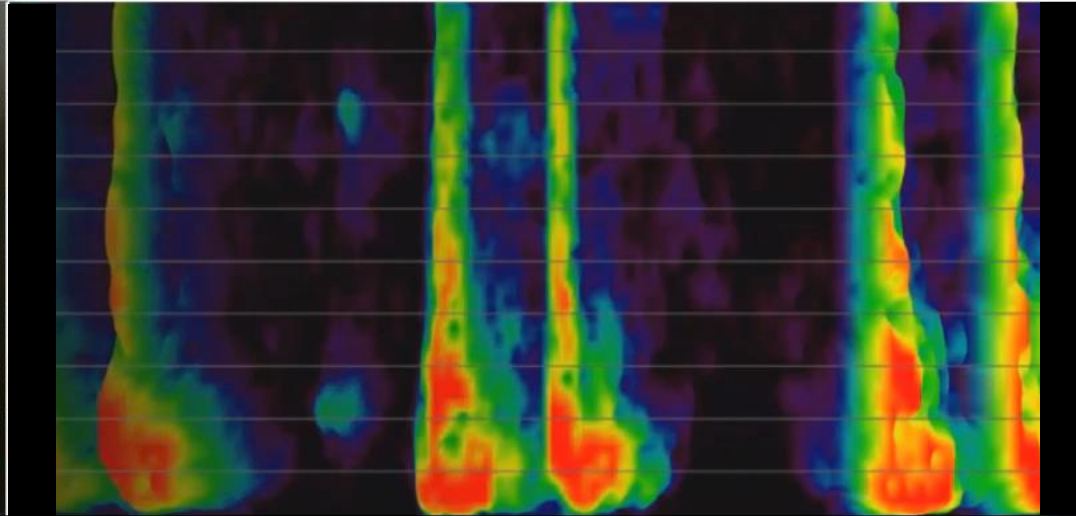
- 自己紹介/会社紹介
- 異能(Inno)vation プログラム
- 超聴診器
- 遠隔医療
- Take home message

①取得

②送信

③出力





本日の内容

- 自己紹介/会社紹介
- 異能(Inno)vation プログラム
- 超聴診器
- 遠隔医療
- Take home message

